

大雨による 災害の復旧工事を安全に 進めましょう！



わが国は、けわしい地形ともろくて弱い地質が多いことから、梅雨期、台風時には大雨によって土砂災害等の被害がもたらされています。

それらの災害復旧工事においては、土砂崩壊及び土石流による労働災害の発生が危惧されるところです。

大雨等の災害復旧工事等における土砂崩壊及び土石流による労働災害を防止するため、このリーフレットに示した事項に十分留意して、安全に工事を進めましょう。

土砂崩壊災害防止のポイント

調査

地山の形状、地質及び地層の状況、亀裂、含水及び湧水の状況等をあらかじめ調査しましょう。



計画

作業計画に基づき、作業を行いましょう。



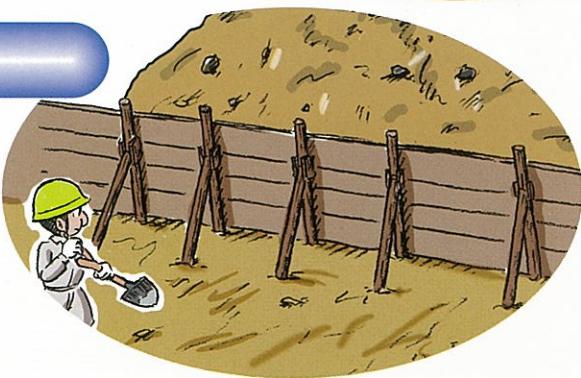
監視

必要に応じ、地山の状況を監視しましょう。



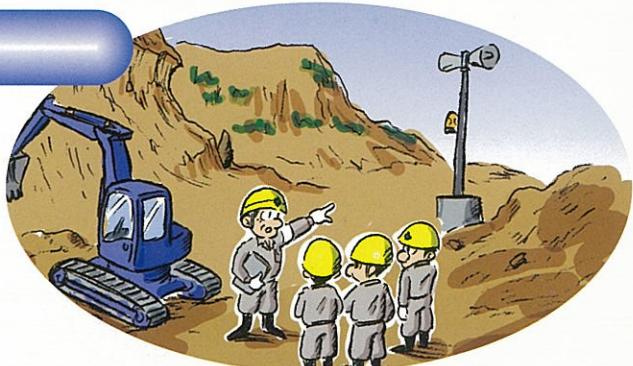
土砂崩壊防止

土砂崩壊のおそれがある場合には、土止め支保工を設けましょう。



避難の周知

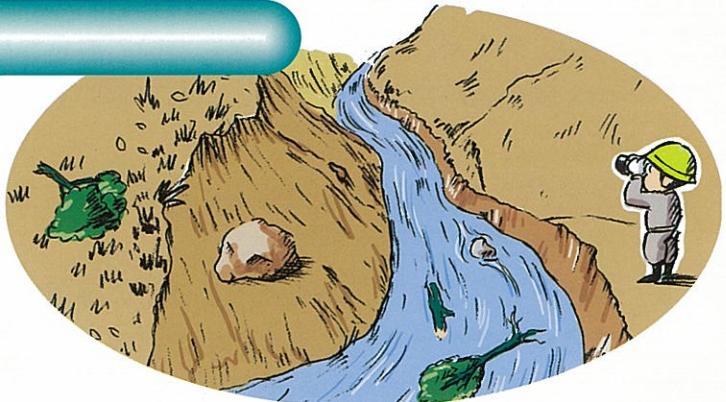
避難の方法について、労働者に周知しましょう。



土石流災害防止のポイント

調査

上流の河川の形状、周辺の崩壊地の状況をあらかじめ調査しましょう。



警戒

危険が予想される場合は、上流の状況を監視しましょう。



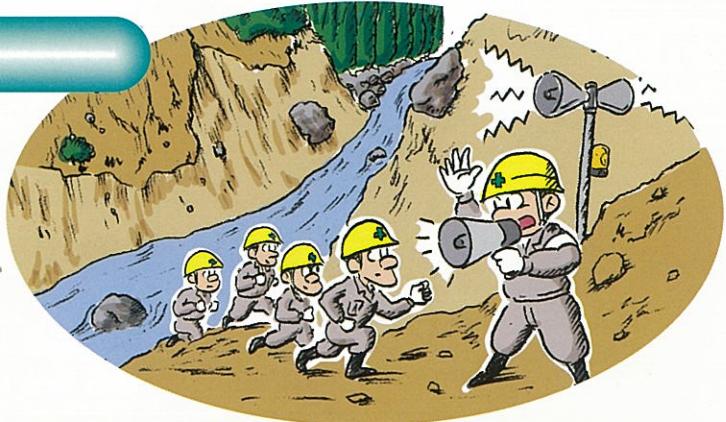
避難の周知

警報及び避難の方法について、労働者に周知しましょう。



避難訓練

緊急連絡体制を確立し、避難訓練を実施しましょう。



土砂崩壊災害防止措置

- (1) 工事の施工に当たって、作業箇所及び周辺の地山について形状、地質及び地層の状況、亀裂、含水及び湧水の状況等についてあらかじめ十分に調査を行うこと。また、今回の大雨の降雨前から着工している工事にあっても、必要に応じ、改めて同様の調査を行うこと。
- (2) 上記(1)の調査結果を踏まえ、作業計画を定め又は作業計画を変更し、これに基づき作業を行うこと。
- (3) 点検者を指名して、作業箇所及びその周辺の地山について通常の場合よりも頻度を高めて点検を行うことにより地山の異常をできるだけ早期に発見するよう努めること。また、必要に応じ、地山の状況を監視する者を配置すること。
- (4) 土砂崩壊のおそれがある場合には、あらかじめ堅固な構造の土止め支保工を設ける等土砂崩壊による災害を防止するための措置を講じること。また、土止め支保工を設ける等の作業中における災害の防止にも留意すること。
- (5) 急迫した危険が生じた場合における緊急連絡体制を確立するとともに、避難の方法等について労働者に十分周知すること。

土石流災害防止措置

- (1) 土石流危険河川における工事の施工に当たっては、作業場所から上流の河川の形状、その周辺における崩壊地の状況等についてあらかじめ十分に調査すること。また、今回の大雨の降雨前から着工している工事にあっても、必要に応じ、改めて同様の調査を行うこと。
- (2) 土石流の早期把握等の措置を講ずるための警戒降雨量基準、作業を中止して労働者を退避させるための作業中止降雨量基準等を、必要に応じ見直すこと。また、降雨量が警戒降雨量基準に達していなくても、危険が予想される場合には、作業場所から上流の状況を監視する等の措置を講じること。
- (3) 警報用設備及び避難用設備の点検を実施するとともに、警報及び避難の方法等について労働者に十分周知すること。
- (4) 急迫した危険が生じた場合における緊急連絡体制を確立するとともに、避難訓練を臨時に実施し、労働者の安全に対する意識を高揚すること。また、これらの際には必要に応じ、近接して作業を行う異なる元方事業者と連携すること。



建設業労働災害防止協会

〒108-0014 東京都港区芝5-35-1産業安全会館 7階

TEL 03-3453-8201 FAX 03-3456-2458

(制作：平成10年11月)